

医療現場の「ホント」に迫る！

民医連 埼玉民医連

医療生協さいたま

トトロのふるさと

HOMETOWN OF "TOTORO"

For medical students and residents

医療現場のリアル

潜在化した生活困窮が
明らかになったケース

トトロのふるさと*Friends

オンラインで医学生向け
学習ミーティング開催



Rights of the Child



子どもの 人権

子どもにももちろん人権があります。
子どもを権利の主体として社会的に保障する。
埼玉協同病院での実践例を取り上げます。



平澤 薫

埼玉協同病院 小児科
医師



伊藤 千晶

埼玉協同病院 小児科
看護師 副主任

February

194 2022 02

©Saltama



子どもの人権

01

子どもの安全を最優先にして虐待から守る

埼玉協同病院の小児科では、虐待が疑われるケースをチームで共有・対策しています。その活動について平澤医師に聞きました。

平澤 薫（医師） 埼玉協同病院 小児科

小児虐待対策チームの立ち上げ

埼玉協同病院の小児虐待対策チームは、2017年の3月から活動しています。立ち上げたきっかけは明らかに虐待だという事例があり、対応を強化したいと考えたからです。同じ頃、埼玉県で、医療機関や関係機関が連携して子どもの虐待防止に取り組むネットワークができたこともあり、地域で連携して一緒にやっっていこうと始めました。

もちろん虐待が疑われる人に対しては介入しなくてはならないですが、子どもへの虐待を産む環境について探り、地域につないだりして親を支援することも活動も目的です。

助けを求めている親の不安を見逃さないように支援

虐待が疑われる事例で最も多いのが、家庭内の事故です。ベッドから転落した、お湯をこぼして火傷した、お母さんの薬を間違えて飲んだ、などということを受診する人がいます。そういう家庭内の事故の中に虐待の事例が隠れていることがあります。

診察室で親の話を聞いていると、少し様子がおかしいと感じる人がいます。母子手帳を見させてもらうと、健診や予防接種をほとんど受けていないとか、子どもの健康管理の面で引っかかることがあります。もちろん問題のない親もたくさんいます。

また、いろいろなご家族が来られますが、ときどき思いつめているように表情が暗いお母さんがいます。「お母さん、大丈夫ですか？よくがんばっていますね」などと話しかけると、急に泣き出してしまう人もいます。お母さん自身が精神的な病気を抱えていたり、社会的なハンディキャップを抱えたりしている家庭もあると思います。

子育てのつらさを相談してもらう

精神的に追いつめられ、うまく子育てができない、どうしていいかわからない、助けを求



小児虐待対策チームとは？

虐待が疑われる方、否定できない方、家庭内の事故、養育支援を必要と判断される方、スタッフが気になる親子を対象に、チームで対応を検討します。

めている場合があるのです。近年は一人親家庭が増えていますから、子育てのつらさを誰にも相談できない人がいるんだろうと思います。

診察室で話を聞いてあげる時間が取れないときは、看護師さんをお願いして、個室でゆっくり話を聞いてもらいます。そして必要に応じてその後のフォローも行っています。私も何かつらかったときに声をかけてもらえたり、話を聞いてもらえて楽になったという経験があります。誰かにつらさを理解してもらえたら、自分自身が非常に助かるんですね。

気になる親子の情報をチームで共有する

私たち医師は、看護師さんや待合室の様子を見ている受付の事務さんから、「ちょっと気になる」と伝えられてから診ることが多いです。ときには待合室で子どもをたたいたり、怒鳴りつけている方もいます。

気になった親子については、チェックリストに記入しています。いろいろな視点が入ったほうがいいので、待合室の様子を事務がチェックし、話を聞いた様子を看護師がチェックし、診察室の様子を医師がチェック。それを事務がリストにまとめて、月に一度開くチーム会議で「このケースは大丈夫だろうか」と1例ずつ検討しています。

検討した結果、こちらから地域の保健セン

ターや市役所の子育て相談課につないで、様子を見るようにお願いしたり、虐待が疑わしいケースについては、児童相談所に通告することもあります。

地道な活動が虐待防止につながっていく

虐待対策チームが関わって、最悪な事態を防ぐことができたり、多少なりとも自分なりにがんばって子育てして、「なんとかやっています」と言ってくれるお母さんがいると、うれしさを感じます。

チーム会議では、「外来の待合室ではこうだった」「これはこうなんじゃないか」などと活発な意見交換がおこなわれます。この活動は、チームのメンバーそれぞれが自発的にかかわって、子どもの家庭環境にも目を向けて、おせっかいを焼くような形で地道に続けていくことが大切のかなと思います。

親の幸せが子どもの幸せ親を孤立させない

当院には小児科や産婦人科のスタッフがたくさん関わっている子育て支援チームがあります。現在コロナ禍でお母さんたちが集まらないので、LineやYouTubeを使って発信し、子育て支援の取り組みをしています。

親を孤立化させないことが、子どもの幸せ

にもなると思っています。

医師を目指している人たちへ人との関わりや経験を大切に

私は中学3年のときに出会った漫画『スーパードクターK』の主人公、どんな怪我でも病気でも治してしまう天才外科医に憧れて医学部を目指しました。

人の命にかかわる医師の仕事は責任が重くて、疲れることもありますが、患者さんが笑顔になったり、「本当に助かりました」「先生に会えてよかったです」と言ってもらえると、それだけで元気になります。

医師として働いていると、患者さんに共感することも必要だと感じます。でも誰でも経験していないことは、なかなか共感しにくい。私は病気で仕事を休んで患者になったことがあります。医師や看護師さんからの声かけがすごく心に沁みました。

そんな体験から思ったことは、医師をめざす私たちは、医学の勉強だけでなく、学生時代からいろいろな人と話したり、たくさん経験をしたりしておくことが大事だということです。みなさん、がんばってください。

Next page





02

病気とつきあうのは子ども本人 主体性を大切に

子どもへの病気や医療行為の説明について、どのような工夫がされているでしょうか。伊藤看護師に聞きました。

伊藤 千晶 (看護師)

埼玉協同病院 小児科 副主任



子どもへの説明は 子どもの年齢や個性を考えて

子どもは成長していく過程で怪我や病気、予防接種など様々な理由で小児科を訪れます。看護師はどの年齢の子どもに対しても、子ども自身が医療行為を十分に理解して納得し、心の準備ができるようにもっていきます。年齢だけでなく、その子の個性や様子を見ながら、できるだけ不安を取り除けるように考えて、声かけをしています。

3歳以下の子ども場合は、よくわかる子どもと、小児科は嫌なことをされる場所だと思ってしまう子どもに分かれますね。小学生以上

の子どもには、「なぜ検査をするのか。どういう検査をするのか。これくらいで終わるよ」などと具体的な説明をします。

小児病棟に入院している子どもに向けてですが、検査日が決まると、病棟保育士と協力して話をしたり、ぬいぐるみを使って注射をしたりします。事前にこのようなプレパレーション[※]を行うと子どもの反応が違います。子どもにとって大切なことなので、病棟だけでなく、今後は外来でも増やしていきたい取り組みです。

子どもが安心して 手術に向かえるような工夫

コロナ禍の影響で、これまで耳鼻科や整形外科などで受け入れていた子どもたちを、小児科で受け入れるようになりました。特に耳鼻科の手術の場合は、当日入院してそのまま手術室に向かうので、子どもの精神的ストレスは大きいだろうと思います。これまでは保護者が手術室の中まで入り、麻酔がかかるまで傍に付いていられたのですが、コロナ禍で禁止になり、手術室の入り口までしか付き添えません。

なんとか子どもの不安を取り除いてあげたいと思っていたところ、最近、開く絵本のようなよい教材を見つけました。これから手術室の写真も撮って工夫を加え、「手術室の中はこんな

だよ」「こういうマスク(酸素マスク)をお口に当てるよ」「手術室から戻ってくると、お胸に心電図のモニターがついているよ」などと、手術前に説明できるように、現在作成しているところです。

親との関係を配慮しながら 子どもとの信頼関係を築く

医師から病気や治療の説明を聞くとき、親と一緒にあまり自分の気持ちを話さない子どももいます。家族になかなか質問できないこともあるようなので、小学校高学年から中学生の子どもたちには、「病状や治療に対してどう感じているのか」本人の口から考えを聞きたいと思っています。本当の気持ちを看護師に話してもらえるようになるためには、まず看護師との信頼関係を築くことが大切なので、入院中の子ども達には病室を回る回数を増やしたりしています。

もちろん本人の意見だけでは決定できませんが、本人がどうしたいのかを聞き、本人の意思を尊重して、それに沿っていけるように関わっていきます。

今後病気と付き合っていくのは、子ども本人です。看護師として、これからも子ども本人の合意と納得を大切にあげられるように関わっていききたいと思います。



プレパレーションとは?

子どもに合わせて人形や絵本などを使ってわかりやすい言葉でこれから行う検査や手術の説明をすること。

医療現場のリアル ~SDH・いのちと向き合う私たち~

潜在化した生活困窮が 明らかになったケース

Case study [医療現場での事例]

Aさん(70代女性)は生活保護をうけながら生活を続けていましたが、重篤な脱水状態で救急搬送され、当院に入院しました。入院後の検査でAさんの腎臓にがんが見つかりました。病状を鑑みた結果、積極的な治療は行わずに痛みや苦しみを和らげる方針となりました。Aさんからは「家事をする元気もないし、自宅で過ごすのは難しいと考えている。退院先は、施設を探してほしい」と希望がありました。療養先を探す前に、家族関係についてAさんに確認すると、Bさん(70代男性)と4年間同居していることが分かりました。Bさんに連絡を取ると、Aさんの療養先については、病院側で探してほしい、という意向と、Bさん自身も今後の生活について不安が大きいという話がありました。Bさんの生活状況を詳しく伺うと、コロナ禍により従事していた職を失い、住所不定・無保険の状態でAさんと同居していたこと、Aさん宅に閉じこもりがちだったため屋外を歩ける歩行状態ではないことを打ち明けてくれました。そこで、Aさんの療養先検討とBさんの生活支援を同時に行うことにな

りました。Aさんは施設への退院、Bさんは生活保護の申請となりました。退院時、AさんにBさんの写真を渡しなが、Bさんが生活保護を申請したことを伝えると「いろいろとありがとうございました」と話し、安心した様子でした。Aさんが退院して一週間後、Bさんから、Aさんが施設で亡くなったと連絡がありました。Bさんは、Aさんが逝去された後も、地域包括支援センターと市役所のフードドライブの支援を受けながら、一人暮らしを継続しています。

第2種社会福祉事業として本事業を開始してから、9年が経過しました。2015年~17年度の3年間に利用した707事例のうち14事例をまとめ、2019年5月に「いのちと向き合う私たち~無料低額診療事業からみえてきたこと~」を発行しました。



この事例から、みなさんに伝えたいこと

ー現場に立つ医師よりー

この事例を読んだ皆さんは、AさんとBさんの生活が想像できますか。まず、重篤な脱水状態で救急搬送されるに至るまでの背景がいろいろありそうです。おそらく癌は数年前から身体をむしばんでいたはずで、発見時にはすでに終末期(余命半年以内)の状態と考えられます。もうすこし元気だったころに病院に行く機会はいくらでもあったでしょう。どうして受診しなかったのでしょうか、受診できなかったのでしょうか。それを想像する力が医療者には必要です。「もっと早く病院に来てくれれば」と思うことが、日常診療では多々あります。しかし、受診したほうがいい症状なのか判断することが難しい場合もあるし、過去に病院を受診したときの辛い体験があったかもしれないし、お金がかかるからと受診しなかったかもしれない。医療者は「なんでもっと早くこなかったんですか」という乱暴な発言を、患者さんに向けてはいけません。また、入院をきっかけにして家族の問題が明らかになるということもよくあります。しかし、Bさんの存在にすら気づけない、気づかない場合もあるでしょう。その違いは何なのでしょう。読者のみなさんには、患者さんの生活背景や家族のことにまで目を向けられる視点をもった医療者になってほしいと思います。

SDH とは?

健康は遺伝子や生活習慣などの生物学的要因だけで決まるのではなく、成育歴・労働環境・所得・人と人のつながりなどの社会的背景も関与しており、これらを「健康の社会的決定要因(SDH = Social Determinants of Health)」といいます。医療生協さいたまでは、SDHに着目したHPH活動や社会保障拡充のための活動を通じ、健康格差の縮小を目指しています。

原因不明の体の不調には、背景に困難な状況が隠れていることも。医療生協さいたまでは、本人の気持ちに寄り添い、ときには医療を超えた支援も実施しています。

Nurse

この2年間は様々な社会背景を持つ患者さんを診て、疾患だけでなくその方の人生にも目を向けるようになりました。印象的だったのは、新型コロナウイルス感染症の影響から受診を控えたり、失業のため入院・受診ができず病状が進行してしまった患者さんが多くいた事です。適切な時期に治療を受ける事ができない方も多くいる事を痛感し、多職種連携のチーム医療の重要性を改めて感じました。研修中知らない事、出来ない事ばかりで挫けそうになる事も多々ありました。そんな時に患者さんの笑顔や、元気になった姿を見ると「また頑張ろう」と思い、私の原動力になっていました。3年目は外科医として後期研修を行う予定です。将来的には乳腺外科医として、乳腺疾患の診断・治療や予防に努め、患者さんの疾患と人生に寄り添う事ができる医師を目指して精進して参りたいと思います。

私の2年間

初期研修の初めはわからないことだらけで指導医の指示通りに動くことで精一杯でした。医学部で様々な疾患について学びましたが、実際には複数の疾患をもつ複雑な病態の患者さんや、身寄りのない高齢・独居の方で今まで通りの生活に戻れない患者さんなど教科書通りにはいかないことが多々ありました。そういった患者さんには、指導医の先生とディスカッションを重ねて治療方針を決定したり、多職種カンファレンスで看護師さんを始めとする他医療職から意見を貰い治療や退院のプランを考えたり医師のみでは医療は成り立たない事を痛感しつつ診療に取り組んできました。来年から埼玉協同病院の内科専門研修プログラムでより主体的に様々な疾患に対応できるよう基礎力を付けながら専門的な分野ももてるようになりたいです。

鈴木佳那子

揚野佳太

瀧田郁洋

初期研修修了報告

2年間の初期研修も残すところあと少し。2年目初期研修医に研修について振り返ってもらいました。

最初の1年間は目の前の業務に追われ、患者さんの対応に関して自分の考えを持たず、すぐ指導医に頼ってしまいました。1年目の終わり頃からは心の余裕も生まれ、積極的に勉強し自分で診断や治療方針を考えたと指導医と相談するように意識しました。当直も独り立ちして、簡単な症例であれば一人で対処できるくらいに成長できたと思います。ただ、救急で重症患者さんが来た時はまだうろたえてしまい、指導医に言われるがまま動くことも多いので、さらに経験を積んで落ち着いて診療できるようにしたいです。来年度から総合診療専門プログラムに進みます。将来的には患者さんがもつ様々な問題を解決したり、苦痛を取り除いたり、患者さんが住み慣れた地域で生活できるように支援を行ったりと、総合的な視野を持って医療を実践していきたいです。

医師キャリアステップ

医学部

6年間

教養科目／基礎医学
臨床技能教育／臨床実習／国家試験

初期研修

2年間

医師の第一ステップ。医師としての人格の涵養と基本的診療能力を学ぶ研修です。2年間で様々な診療科+地域医療を学びます。

専門医研修 3-5年間

初期研修修了後、専門分野を極めるための研修期間です。内科・外科・小児科などの19の基本領域に加えて、消化器・新生児など臓器・分野別の専門に分かれるサブスペシャリティがあります。

医師



Asako kaori

浅子Dr



インタビュー

後編

埼玉協同病院・和泉先生 のもとで勉強の日々

夫が認知症、パーキンソン病を発症し入院してからは、私が夫に代わり浅子医院（小児科）を続けていました。ただ、ずっと夫の助手として働いていたため、一人で診療を続けることに不安や迷いがありました。閉院も考えていた矢先、地元議員秘書の方に「辞めないで、力になるから」と声をかけてもらい、続ける決意ができました。同時に診療継続のためには勉強し直す必要があると感じ、知人の紹介を経て、私の状況を理解した上で受け入れてくださる埼玉協同病院に辿り着きました。そこから、小児科の和泉先生のもとで勉強の日々が始まります。まず驚いたことは、昔と治

療法が全然違うこと。例えば、今でこそ喘息は吸入薬での治療が基本ですが、昔は、母親が甘えさせる母源病と言われていました。40年ほど前までは、母親からの影響をなくすため施設で子どもだけ集めて合宿させるような治療が行われていることもあり。和泉先生には様々なことを教えていただき、本当に感謝しています。おかげで、夫の他界後も90歳になるまでずっと診療を続けることができました。

老健さんとの仕事 今の生きがい

浅子医院を閉院して約半年後、老人保健施設さんとの施設長になりました。さんとの仕事は、今の私の生きがいです。利用者さんはみんな憎めない人たちばかり。100歳でもからからと本当に可愛く笑う人、いばって見えるようで話し込むといい人など。残り少ない人生だと思つて、本気になって利用者さんの相談にのります。職員はみんな一生懸命でやりがいを持って働いています。浅子医院とは違う世界ですが、立派な人たちがいて、新たな発見が多くありました。

今の楽しみ、 未来のためにできること

今の楽しみは、お酒。同級生と2人で一緒に浅草の神谷バーによく飲みに行きます。「いつ死ぬか分からないから、来週また飲もうね。」と約束して。私も94歳。ここまで生きてこれて感謝しています。だから、困った人を少しでも助けなくてはと思っています。最近は、近所の人の買い物をしたり、ごはんをつくって持って行ったりしています。人生あといくらでもないからね、何かいいことしなくちゃね。8年ほど前から参加している反原発の官邸前抗議も、未来を生きる次世代のため、よりよい社会にいくための活動の一つ。毎週友人3人とデモに参加しています。そのあとのごはんとお酒が何より美味しい。コロナ禍の影響で今はそれできなくなってしまいましたが…。今日もこれから最後のデモに行きます。今の医学生さんにアドバイスはできませんが、ぜひたくさん本を読んでください。私は、今はジャーナリストの伊藤千尋さんの本を読もうと持ち歩いています。社会を知ることがとても大事なことです。医学だけでなく、さまざまな分野の本を読んでほしいと思います。

Book review [ブックレビュー]

「最後の医者は桜を見上げて君を想う」

二宮 敦人 著

- あなたは将来どんな医師になりたいですか？あなたはどんな最期を迎えたいですか？この本はタイプの異なる3人の医師の死生観を通して、「いのち」について考えさせられる小説です。
- 奇跡を信じ、何としても患者を延命させようとする、絶対に諦めない医師・福原。患者に能動的な生き方を促し、患者は死に方を選べるはずだと主張する医師・桐子。そして、そんな2人に挟まれ、患者と共に悩み、迷い寄り添う医師・音山。私はこの中に絶対的な正解があるとは思いません。ここでは、私の最も印象に残ったエピソードを紹介したいと思います。
- ある女子大生はやっとの思いで大学受験に合格した矢先、ALS(筋萎縮性側索硬化症)と診断されました。ALSとは難病の一つであり、全身の筋肉が徐々に衰えていき、最後は死に至る病気です。大学受験でなくとも構いません。努力を重ねて得た喜ばしい結果の後に待

ち受ける残酷な現実、それを突きつけられたら平常としていられるでしょうか。

- 「今日まで健康だったとしても、それは何の保証にもならない。」これはこの本に出てくる言葉です。今元気で、もしかしら明日には何かの病気にかかったり、交通事故に遭ったりして命を落とすかもしれない。想像できないかもしれませんが、あり得ない話ではないですよ。このエピソードにおいても、3人の医師で考え方は異なります。十人十色という言葉のように10人の医師がいれば、考え方も10通りあるはずなのです。自分がどんな医師になりたいのか考えさせられると同時に、自分の生き方も考えさせられる本です。涙なしでは読めないと思います。医師であっても、医師を目指す人であっても、医師でなくても、自分の生き方を考える上でも読むべき一冊だと私は強く思います。（弘前大学医学部1年 安藤舞佳）



Information

埼玉協同病院 病院見学

埼玉協同病院では病院見学を受け入れております。見学ご希望の際は、教育研修センター (SKYMET) のホームページよりお申込み下さい。

HP-URL <https://www.skymet.jp>



2022春・高校生一日医師体験

2/21(月)受付開始

ホームページよりお申込みください。

HP-URL <https://www.mcp-saitama.or.jp/recruit/doctor/highschool.php>



トトロのふるさと Webアンケート

ご協力頂いた方には先着で5名様にQUOカード(500円分)をプレゼントいたします。(応募メ切:3/31回答分まで。プレゼント発送前にメールにてお知らせいたします)



先着で
QUOカード
プレゼント!



トトロのふるさと Friends

埼玉の医療を考える会

埼玉民医連では2021年8月に埼玉協同病院内科医 草野賢次医師を講師に「埼玉県の地域医療～埼玉で医療を考えるきみへ～」をテーマに学習講演会をオンライン開催しました。

講演では医師を目指したきっかけから、埼玉県で地域医療をしようと思った経緯まで学生時代から初期研修、後期研修にかけての草野医師のライフストーリーが語られました。

「地域医療とはまずその地域の特性を知り、地域からの要望に合わせながら医療を提供していく事が原則で地域の患者、家族、家庭環境に自分たちの医療が自然に溶け込んでいくようなイメージが自分にとっての地域医療のイメージ」と地域医療への自分なりの想いも話がされました。

埼玉民医連ではこのように地域医療や医学生・高校生の皆さんが学ぶためのイベントを企画しています。皆さんも興味のあるテーマがありましたら是非ご参加ください。

今回の公演を聞いて地域医療の概念が自分から入っていく医療とおっしゃっていて、スッキリしたなど感じました



きみもトトロのふるさとFriendsに登録しよう!

仲間と医療が関係するさまざまな問題について学び語る企画を開催しています。埼玉県で医療がしたいと思っている医学生、医学部を目指している高校生のみなさんのご参加をお待ちしております。

トトロのふるさとFriendsにはQRコードから登録できます。



連絡・問い合わせ先/埼玉協同病院 教育研修センター

<https://www.skymet.jp/>

<https://www.facebook.com/kyoudou.skymet/>

▲トトロのふるさとFriends登録フォーム

医師を志すみなさんへ

奨学生募集

お申込・お問い合わせ先

埼玉民医連・医療生協さいたま
埼玉協同病院 教育研修センター

TEL

048-296-5822



SKYMET

<https://www.skymet.jp/>



私たちは学ぶみなさんの力になりたい。

奨学生活動は、みなさんの医学生としての成長、医学生生活の充実にきっと役に立ちます。そして大学では学べない学びが沢山あります。奨学生になって、学び、考え、私たちと一緒にこれからの埼玉の医療を支えていきましょう。

貸与金額
月額
80,000円

特別貸付・
入学時特別貸付
あり

返済
免除制度
あり

医療現場の「ホント」に迫る!

トトロのふるさと

HOMETOWN OF "TOTORO"

February

194

2022 02

発行/ 埼玉民医連

医療生協さいたま

埼玉協同病院 教育研修センター <https://www.skymet.jp/>

〒333-0831 埼玉県川口市木曽呂1317番地

TEL:048-296-5822(直通) MAIL: skymet@mcp-saitama.or.jp